

■上田秋成 「雨月物語」後の苦難と本居宣長との論争を経て、漂白の生活に入り、孤独のうちに「春雨物語」を遺した。

うえだあきなり

・ ・ ・ ・ ・ 1734 = 大坂曾根崎で私生児として生まれた(生母は大和国名柄村庄屋末吉家の縁戚の松尾ヲサキ、実父は、秋成の出生時すでに死去していた小堀左門政報と考えられる=小堀遠州の隠れた子孫)。

・ ・ ・ ・ ・ 1737 = 3歳 : 生母に捨てられ、大坂堂島永来町の富裕な紙油商、上田茂助の養子となった。

・ ・ ・ ・ ・ 1738 = 4歳 : 悪性の痘瘡を病み、後遺症として両手指が奇形になる。

・ ・ ・ ・ ・ 1743 = 9歳 :

徳川吉宗隠居 1745 = 11歳 :

幼時に懐徳堂で学び、以後中井履軒と親交、

みずからを“浮浪子”と称する遊蕩児時代を過ごしなが、
養父母の慈愛のもとに成人し、家職を継ぐ。その間に遊びとしての俳諧を覚え、

徳川吉宗没・ 1751 = 17歳 :

・ ・ ・ ・ ・ 1752 = 18歳 :

薩摩藩工事・ 1753 = 19歳 : この頃から、漁焉と号して小野紹簾系の青年俳人として活躍。

大岡忠光没・ 1760 = 26歳 : 結婚。

・ ・ ・ ・ ・ 1761 = 27歳 : 養父が没する。
_青年期の放蕩児体験が浮世草子への執筆へとかりたて、

加賀千代句集 1764 = 30歳 : 「諸道聴耳世間猿」を脱稿し、

忠臣蔵大当り 1766 = 32歳 : 和訳太郎の戯名で刊行。

明和事件・ ・ 1767 = 33歳 : 「世間妾形氣」を刊行。この頃、2人の知識人と出会い、それが決定的な人生の転機ともなった。国学者
加藤美樹から日本の古典の美しさとその学問を、白話小説家都賀庭鐘から中国白話小説の斬新なおもしろさを
教えられ、生来の文学的才能はみごとに開花し、

久留米藩工事 1768 = 34歳 : *一気に「雨月物語」を書きあげる。

・ ・ ・ ・ ・ 1770 = 36歳 :

御蔭参流行・ 1771 = 37歳 : その出版をみる前に火災に遭って家・財産を失い、養母・妻をかかえて路頭に迷う状態に落ちたが、

田沼意次老中 1772 = 38歳 : 大坂北郊加島村の加島稲荷(香具波志神社)社家藤氏に寄寓し、木村兼葭堂その他の友人に助けられつつ医を
都賀庭鐘に学び、

解体新書・ ・ 1774 = 40歳 :

黄表紙始・ ・ 1775 = 41歳 : 狂歌集「万句集」刊行。_医師、俳人、学者としての名が高まって、

雨月物語刊・ 1776 = 42歳 : 再び*大坂に戻り町医師となり、「雨月物語」を刊行。

源内獄中死・ 1779 = 45歳 :

この間、各地を旅行。

史論「遠駝延五登」・宣長の「上ッ代の実」に対する物語としての「神代かたり」・源氏物語の寓言論「ぬば玉の
巻」・

蝦夷初調査・ 1785 = 51歳 : 「歌聖伝」成る。

田沼意次失脚 1786 = 52歳 : 日ごろ不信を抱いていた伊勢人本居宣長に対して、その著書「鉗狂人」の評を中心に、その皇国絶対化の
思想を激しく批判し、宣長もこれに尖鋭に応酬した。これが「呵刈葎」論争である。

寛政改革始・ 1787 = 53歳 : 「也哉抄」「書初機嫌海」刊行。_この論争に嫌気がさしたこと、健康を害したことなどの理由で、この年
にわかに医を廃業し、大坂北郊の淡路庄村に隠遁した。

隠者として過ごしたその後の7年の間に、茶道書、戯著、国学関係書など多数を、著刊あるいは校刊している。
その痲痺とともに文人としての名も知られていた

・ ・ ・ ・ ・ 1788 = 54歳 :

初の横綱・ ・ 1789 = 55歳 : 養母が没する。

異学の禁・ ・ 1790 = 56歳 : 妻が剃髪し、瑚璉尼と名のる。左目を失明。

混浴禁止・ ・ 1791 = 57歳 : 「痲痺談」成るか。

ヲクサン来日・ 1792 = 58歳 : 「安々言」成る。

松平定信引退 1793 = 59歳 : 「よしやあしや」刊行。中井履軒とは縁が切れ、_漂然と淡路庄村の居宅を捨てて、妻、妻の母を連れて上
京し、以後、京都を中心に、知己や後援者をたよって次々に転居をくり返す漂泊の生活に入る。

オノダ 正月・ 1794 = 60歳 : 「清風瑣言」刊行。

昌平饗始・ ・ 1797 = 63歳 : 妻瑚璉尼が没する。「霊語通」刊行。

古事記伝・ ・ 1798 = 64歳 : 妻の遺稿を発見、浄書して納める。*妻の突然の死による悲しみで右眼も失明したが、名医谷川良順と出
会い、左眼の明を回復、歌、文章、古典論考を営々と書き、その一部が公刊されて行くなか、

伊能測量始・ 1800 = 66歳 : 「万葉集檜の柚」成る。

いざノ来航・ 1804 = 70歳 : 「金砂」成る。

青洲麻酔手術 1805 = 71歳 : 養女恵遊尼に去られ、天涯孤独な身となり、嫌人癖はさらにつのっていった。歌集「藤篋冊子」刊行。

いざノ報復・ 1806 = 72歳 :

いざノ船狼藉・ 1807 = 73歳 : 歌集「秋の雲」成る。

フェートン号事件 1808 = 74歳 : 「文反古」刊行。

浮世風呂・ ・ 1809 = 75歳 : 「俳諧義論」成る。自己の死を予期しつつ、独自の随筆集「胆大小心録」を書き、門人羽倉信美の邸内で、*名
作「春雨物語」を書きつつ、没した。